



□ 川越街道藤間あたり

江戸時代、川越藩は江戸の北辺の拠点として代々譜代の大名が配され、江戸と川越を結ぶ川越街道は重要な役割を果たした。川越から4つの宿を経て、板橋宿で中仙道に入り日本橋へ。この間の距離を川越名産のさつまいもになぞらえた「九里(栗)よりうまい十三里半」とは、言いえて妙である。名物の杉並木は、隣接する大井町、三芳町あたりに今も残る。川越では、藤間あたりに街道跡の面影をみることができる。

